「福島原発震災に関する研究フォーラム」
2021年度の活動報告

共同世話役　清　水　奈名子・髙　橋　若　菜

宇都宮大学では、原発事故が発生した2011年４月から国際学部の複数名の教員を中心として、放射線被ばくに比較的脆弱とされる乳幼児・妊産婦を抱えるご家族の支援実践活動、調査活動、アドボカシー活動を2015年３月まで展開してきました（福島乳幼児妊産婦支援プロジェクト）。この活動を通じて、原発事故は福島に固有の局地的な危機ではなく、むしろ過去の国内外の環境災害にもみられたように、一部の社会グループに犠牲を押付ける構造的問題であることを明らかにしてきました。そのような観点から、原発震災の記録を残すことは、地域社会、日本社会、そして国際社会への社会貢献であり、また後世への“社会的責務”でもあると考えています。

こうした共通認識から、2015年度に私たちは、原発震災の記録を残し、問題提起を続けることに重きを置く活動を行うために「福島原発震災に関する研究フォーラム」を立ち上げました。福島原発震災が社会にどのような影響を及ぼしたかを構造的な視座から捉え記録し、社会に広く公表・発信していくことをめざしています。また、原発震災による被災者の困難は長期化していることをふまえ、現実の政策課題の提言につながるような研究をめざしています。

2021年度は昨年度と同様に、COVID-19によるパンデミック禍の下での調査研究活動を余儀なくされましたが、オンラインツールを利用した公開授業、オンライン映画上映会などの開催を実現し、社会的発信を続けてきました。ただでさえ風化が進んでいる原発事故が、パンデミックの長期化を受けて、さらに忘却が進むことのないようにするためにも、こうした活動は今後も続けていく必要があることを改めて感じています。

前年度に引き続き、学会報告、招待講演、論文等の公表を通じて、これまでの研究蓄積を社会に発信してきました。具体的には、事故から10年がたち加速度的に不可視化が進む中で、原発避難者の方々が置かれた窮状を、３自治体に蓄積されたアンケート調査に基づき明らかにしました。さらには、パンデミックと共通する自己責任化を巡る課題、ジェンダー格差に由来する問題、また2020年に引きつづき、栃木県北の住宅地における土壌調査も実施しました。

またオンライン開催企画として、原発事故の被害者による一連の訴訟について考える公開授業や、足尾銅山鉱毒事件に関する記録を継承し歴史からの教訓を考える公開シンポジウムを、多文化公共圏センターと共催しました。いずれの企画も栃木県内外からの参加者含め数十名の参加があり、オンライン開催の利点を実感することができました。

メンバー

共同世話役：清水奈名子・髙橋若菜
アドバイザー：重田康博
メンバー：阪本公美子
研究協力者：津田勝憲（CMPS研究員）
関係団体：栃木避難者母の会
学外連携者：原口弥生（茨城大学）
西村淑子（群馬大学）
田口卓臣（中央大学）

研究分野

1．栃木県内の被災者・市民社会研究
2．新潟県内の被災者・広域避難支援研究
3．教育・発信

活動内容

研究会・シンポジウム開催、研究調査、論文公表、学会発表、出版など。

予算

科学研究費補助金　基盤C「福島近隣地域における地域再生と市民活動―宮城・茨城・栃木の相互比較研究―」（2016－21年度、研究代表者:鴫原 敦子）

科学研究費補助金　基盤C「北関東における原発事故被害の不可視化に抗う住民活動　―権利回復を巡る課題」（2020－2023年度、研究代表者：清水奈名子）

科学研究費補助金　基盤B「語り継ぐ存在の身体性と関係性の社会学―排除と構築のオラリティ」（2017-21年度、研究代表者:関　礼子）

科学研究費補助金　基盤B「環境国際規範のパラダイム・シフトと国内受容比較～欧州とアジアを事例として」2018-2021年度、研究代表者:髙橋若菜）

＜公開セミナー・授業＞

2021年7月21日（水）公開授業「なぜ1万人の原発事故被害者が訴訟を起こしているのか」（オンライン開催）講師：除本理史先生（大阪市立大学大学院経営学研究科教授）

2021年12月8日（月）公開セミナー「語り継ぐ足尾～苦境の中で生活する人々がいた、ということを知ってほしい～」
挨拶：中村真　国際学部長
語り：生沼勤
解説：匂坂宏枝
コメント：高際澄雄
司会：髙橋若菜

＜公開シンポジウム＞

2022年2月24日（木）「原発事故後の市民による検診活動（仮）」（オンライン開催）

＜講演・学会発表＞

清水奈名子「被害の否認と自己責任化　原発事故とコロナ禍に共通する課題を考える」ふぇみ・ぜみ（オンライン）、2021年5月19日。

清水奈名子「脱原発に向けた現状と今後の行方について―栃木県の被害を中心に」とちぎ地域・自治研究所定期総会（宇都宮）、2021年5月21日。

清水奈名子「原発事故後の福島近隣県における健康調査をめぐる課題,」第63回環境社会学会（オンライン）、2021年6月12日。

清水奈名子「被害の不可視化と自己責任化 原発事故とコロナ禍に共通する課題を考える」日本カウンセリング学会第53回大会（宇都宮：オンライン）、2021年8月7日。

清水奈名子「原発事故被害の「否認」を乗り越える不可視化の構造に抗うために」ふくしま30年プロジェクト（オンライン）、2021年8月21日。

清水奈名子「原発事故と女性たち―差別・分断をめぐる課題と向き合う」日本福祉のまちづくり学会 災害研究・支援委員会主催 第3回 原子力災害とマイノリティ（オンライン）、2021年10月23日。

清水奈名子「終わらぬ原発事故―見えにくくされる被害と集団訴訟の意義―」ふくかなトライアルセミナー第6回（オンライン）、2021年11月20日。

清水奈名子「不可視化される原発事故被害―語りにくい被害について考える」ふくしま復興支援フォーラム、第191回（オンライン）、

2021年12月23日。

髙橋若菜「広域原発避難の実態自治体アンケートが照らし出す民間借上仮設住宅停止後の生活影響」環境経済・政策学会2021年度年次大会、企画セッション「福島原発事故10年を検証する」(オンライン)、2021年9月25日。

＜出版＞

清水奈名子「原発事故被害の『否認』を乗り越える」、『10の季節を越えて』ふくしま30年プロジェクト記録誌、6-17頁、2021年3月。

清水奈名子「原発事故が可視化した構造的差別―ジェンダーの視点から」、『月刊ヒューマン・ライツ』第396巻、8-14頁、2021年3月。

髙橋若菜「解消されない広域原発避難―民間借上げ仮設住宅停止以降、何が起きているのか―」『環境経済政策研究』14巻2号、58-63頁、2021年9月。

匂坂宏枝編・生沼勤語り、髙橋若菜監修『語り継ぐ足尾―生沼勤氏の語りとともに』宇都宮大学国際学部付属多文化公共圏センター、2021年11月30日。

髙橋若菜・清水奈名子・髙橋知花「看過された広域避難者の意向（3）－新潟・山形・秋田県のエビデンスから見た支援策の批判的検討」『宇都宮大学国際学部研究論集』第53号、31-46頁、2022年2月（予定）。

＜主なメディア掲載＞

朝日新聞栃木版

下野新聞

しんぶん赤旗